

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2372001418
法人名	有限会社 たけのこ
事業所名	グループホーム たけのこ
訪問調査日	平成 20 年 12 月 26 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 26 日
評価機関名	特定非営利活動法人 『サークル・福寿草』

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2372001418		
法人名	有限会社 たけのこ		
事業所名	グループホーム たけのこ		
所在地	〒441-8145 豊橋市駒形町字退松85番地 (電話) 0532-45-6213		
評価機関名	特定非営利法人『サークル・福寿草』		
所在地	名古屋市中村区松原1-24 COMBI本陣N203		
訪問調査日	平成20年12月26日	評価確定日	平成21年1月26日

## 【情報提供票より】(20年11月25日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成15年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 8人, 非常勤 13人, 常勤換算 12.2人	

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階部分	

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	52,500 円
敷金	有( なし 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 200,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,200 円

## (4)利用者の概要(12月26日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	7名	要介護4	7名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低 80歳	最高 92歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	田中医院・さたけクリニック・滝川ホスピタル・有賀歯科
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームたけのこは、『いつまでも普通に暮らせるノーマライゼーションを基本とします』という理念を持ち、経営者・事務長が若い職員をリードしながら、地道で良質なケアを提供しているホームであることが見受けられた。利用者家族の中には提供されているケアの内容に理解を示し、週に1~2回ボランティアとして介護現場に職員補助として入っているご家族もおられる。おしなべて、経営陣・職員・ご家族が一体となって、ホームの運営が行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>全員で自己評価に取り組んでいる。自己評価・外部評価の一連の評価結果から、自らのサービス改善計画として、スタッフ同士での検討材料として活用されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>引き続き全員による自己評価実施と、前回の評価後に開始された『評価結果検討』で、指摘・ヒント等持ち寄り、『チームによる改善計画書作り』が始まっている。ユニットリーダーを中心にケアプランについて、【立案⇒実施⇒結果の検討⇒修正案立案⇒実施⇒結果の再検討⇒修正案の再立案】が現場で機能し始めている。評価機関にも『要改善点・改善ヒント・知恵』を求めて来ており、GHの質向上に向けての開かれた姿勢が見られる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は、基本どおり、2ヶ月に1度開催されている。詳細は、外部評価項目5のとおりである。過去2ヶ月間のホームや利用者の状況等の報告があった後、ホームを取り巻く重要課題についても報告と相談・協議が為されている。今期の主たるテーマは、直近の集中豪雨水害危機を経験して、非常時対策が真剣に検討された。地元住民・行政等それぞれ支援に限界があるだけに、深刻な課題であるが、利用者の安全確保上重要である。行政の物心両面の支援がより重要でもある。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族との双方向の関係作りにあたって、家族のホーム来訪時には、利用者の詳細はこと細かく報告し伝えられている。更に、毎月送付の『生活記録表』と『たけのこ新聞』によって、利用者家族への安心と信頼を得られるよう努力している。医院受診結果も詳細に電話による報告が為されている。より、精度と密度を上げるために家族アンケートや家族会という選択肢についても検討が始まっており、今後の意見の把握策を模索中である。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>外部評価項目3記載のとおり、地域との関係作りとその実施に向けて工夫がなされている。従来からの陶芸教室・ゲートボール等の日常活動に留まらず、七夕祭り・盆踊り大会等の年中行事を地域に公開する以外にも、校区の作品展では手製のクッキー(300個)を配る等、地域への溶け込み努力をしている。『こども110番の避難所』にもなっている。今後『介護なんでも相談所』の幟もあげていきたいとしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『いつまでも普通に暮らせるノーマライゼーションを基本とする』の法人理念を基に、さらに、10項目の『利用者中心にケアする約束事』を職員によって、追加考案され定められている。玄関ホールでの掲示やパンフレットにも記載するなどを通じて徹底しようとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に復唱しているが、形骸化を避ける為に、今年度は、全職員が理念を具体的に実現しうる『たけのこ新方針』について、コンテストに取り組み、応募作品30点(一人一作)の中から、最優秀賞『目配り・気配り・心配り』、特別賞『一日スマイリーですごしましょう』をそれぞれ選定し、より理念の実現を図ろうとしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板・陶芸教室・ゲートボール等の日常活動に留まらず、七夕祭り・盆踊り大会・記念祭等の年中行事を地域に公開するのみならず、校区の作品展では手製のクッキー(300個)を配ったり、毎日の買い物は近くのスーパーに行ったりする等の努力をしているが、地域への溶け込みは難しいと考えている。『こども110番の避難所』となっている。さらに今後『介護なんでも相談所』の幟もあげていきたいとしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	従来からも、職員全員で評価には取り組んでいる。本年度は、より評価結果を生かすことと、改善行動への参加意識向上を目的に、全職員が『業務改善計画』を立てて、チームで各ユニットの日常業務の改善と実効性をあげることに取り組が始まった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本どおり、2ヶ月に1度開催されている。外部からは行政の代理的立場として地域包括支援センターをはじめ、町内組織の代表・家族会代表等の出席があり、ホーム側からも経営者・事務長・ユニットリーダーが参加している。第15回はホームを取り巻く重要課題や集中豪雨での体験を基に、避難場所と、避難方法や避難所生活についても質疑応答がなされた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃は、地域包括支援センターが市役所高齢福祉課の代行的役割を果たしている。運営推進会議の議事録は、市役所高齢福祉課へ直接提出をする等のコンタクトはとられている。8月の水害時には、市役所との連携があり大事には至らなかった。その折、市役所職員も直接様子を見に来るなどの交流もあった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族のホーム来訪時には、利用者の詳細はこと細かく報告し伝えられているが、毎月送付の『生活記録表』と『たけのこ新聞』によって、利用者家族からの信頼感は一層増す効果をあげていると思われる。医院受診結果も詳細に電話による報告が為され、家族からの安心感と信頼関係には懸念が無い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価時の家族アンケートでは、特段の問題点は見受けられない。運営推進会議だけでは、出席する家族が全ての家族ではないので、家族の本音が聞きだせていないのではというGH側にも疑問がある。家族アンケートや家族会という選択肢について検討が始まっており、意見の把握策を模索中である。	○	前回の評価時にも『家族会』の結成が話題にはなっているが、諸般の理由(遠方在住家族や無関心・多忙家族等)で、未だ発足していない。家族会は、意見把握の為の比較的有效な方策だと判断できるが、結成が難しい様なら、何か他の手立てを見出していたかどうか期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎日の検討会議がユニットを合同して、各日一名ずつ、かつ、小一時間充てて行われているので、全職員で利用者状況の把握がなされている。日々の生活では声かけなど馴染みの関係が構築され、職員異動時のダメージを防いでいる。しかも比較的、職員定着率の高いGHであり、異動による混乱は少ないGHと判断する。当日は職員の内、15名に面接し、満足度の聞き取り調査をした。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は、正職員・パートを問わず、ホーム内・外共に積極的に実施しているGHである。最近では、ケアの実践力向上を意図して、近隣ブロック(東三河地区)のGH間で、交換実地研修(交換留学)も試みとして行う等の工夫もしている。新人をも含めた職員には、それなりの役割期待が充分になされている。	○	職員間での経験内容や年数等のバラつきもあるので、統一した『業務マニュアル』が必要な時期にあると思われる。自己啓発を促す意味でも、『業務マニュアル』作成についての取り組みも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当地域(豊橋)でのリーダー的GHとして、常に先進的ケアに挑戦し、同業者への良い刺激剤になっている。最近では、近隣ブロック(東三河地区)のGH間相互の交換実地研修(交換留学)も試みとして行う等、GH業界全体のレベルアップへの協力もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	共用デイサービス利用者からの入居や事前説明会・GH見学を重視しての入居を優先している。また、入居当初には、新たに入居した利用者の不安感を払拭するように、ホーム長はじめ全職員の個別対応を旨としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との共感・協働を重視するよう全職員が心がけている。調理方法や家事だけに終わらず、趣味(唱歌など)を共有することによって、利用者との『距離感』を無くそうという努力が見受けられる。実の家族(実の親子関係)以上の付き合い方が執れる様、職員は努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の検討会議を、各日一名ずつ、かつユニットを越えて、小一時間充てて行うことにより、本人理解と把握(利用者の全体像把握)に努めている。たばこを吸いたい方には決められた場所で喫煙して頂き、囲碁、野菜作り、ゲートボールなど個人のやりたい活動の支援をしている。併せて、センター方式の『Cシート』を使用し、効果がよりあがるような取り組みも実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日(土日以外)、利用者を一人ずつ順番に全職員と本人参加のもとで、ケア検討会議が実施されている。時には、家族が参加されるケースもあるとのこと。日常生活で、『見たこと』『見えたこと』『聞いたこと』『言ったこと』『感じたこと』など利用者情報を参加職員が出し合い、ホワイトボードを使って整理し、利用者一人ひとりを把握している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	上記のケア検討会議を踏まえ、集積された利用者情報を参考にして、ケア計画の随時見直しは徹底して実施されている。また、その際には家族意見書等の家族意見・要望も組み込み、見直している。計画実施に当たっては家族に相談してケア提供されている。少しずつ体力の低下もあるので、毎日の変化を良く見る対応もされている。更に、急な変化のある場合には、優先して見直しをしている。	○	実施されている現行のケア検討会議は『本人中心主義』と言う視点上きわめて重要であるので、継続して実施することを期待したい。自己評価等でも自覚しておられるとおり、その間、他の利用者への目配りに空白が生まれるリスクもあるので、その対策と検討会議の時間効率化に格段の工夫を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	事業所は地域の社会資源であることは理解しており、陶芸教室が併設され、地域の住民の方との交流もある。共用型デイサービス(利用定員3名)もあり、昼間は利用者と一緒にあって、調理・掃除・レクを行うなど交流している。要望に応じて、時間延長や食事提供等、利用者・家族の要望には弾力的対応が為されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が年々体力低下する傾向があるので、ホームでの医療提供の限界に職員は危機意識を持ってケアに臨んでいる。ホームとしては、近隣に協力医院を設けているが、希望者には、従来からのかかりつけ医も利用してもらっている。緊急時には、家族とは電話連絡のうえ納得をいただく配慮が為されている。	○	利用者のADL低下に伴い、経管栄養や点滴などで家族の希望、かかりつけ医・嘱託医の意見、ホーム職員間での情報共有を一本化しておく必要時期にさしかかっていると思われるので、漏れのない状態を期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときの確認書(事前指定書)を段階ごとにチェックし、家族の意向把握をしている。週1日の訪問看護と看護師の週3日勤務で医療対応体制が執られている。事実、終末期には、ご家族の協力もあり、医師の往診、看護師のかかわり、職員の24時間シート使用等で終末期介護の実績もある。20年5月には、ホームで、通夜・葬儀を実施した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りとプライバシー尊重は、『なされて当然』と言う職員認識への徹底は、ほぼなされている。トイレ・入浴時・日常の言葉使いなどにあっても、職員間の相互チェックとOJTが機能している。更に上を目指すという職員の向上意識の高いGHである。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりを個人として尊重し、行事等でやりたくないことを強制しないよう、気ままに暮らしてもらうことを心がけている。とはいえ、居室での寝たきりにならないような工夫も試みられている。本人希望が叶うホーム生活が提供できるよう、経営幹部以下、全職員が常に試行錯誤している様子が感じられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日昼前には、ユニットごとに全員参加の『献立会議』を実施し、当日の夕食・翌日の昼食メニューを決めている。出来るだけ全員の希望メニューを取り入れるよう工夫している。準備・下膳など興味があり、出来る人にも、という配慮もされている。食事介助の必要な人には、『急がせず・マイペースで』を基本としたケアが確認できた。	○	一部に全部(調理・下膳)を自分で仕切ってしまいたいという、調理得意な人がおり、職員が他との調整に苦慮しているが、定期的に食材仕入れ等の名目で連れ出す等の工夫をしていただき、他の利用者も心置きなく調理を楽しめる工夫を希望する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日朝9時から夜8時までの間に自由に入ることが出来る。大半の利用者が毎日入浴に近い状態であり、入浴を拒む人には、担当職員を変えるなど工夫もされ、入浴記録でその把握も実施している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理を仕切ってしまう人がいて、調理を楽しむことでは、一部障害もある様子だが、おおむね、いろんな企画(唄・ハーモニカ・口笛・草笛・畑仕事・ゲートボール・等)アクティビティのメニューは多いとは思われるが、十人十色であるので他の企画も計画されている。	○	ホームでの生活をより充実していただくためにも、地域の婦人会や老人会又はボランティア団体とも連携して、例えば、手品・演芸・手仕事などの一芸ボランティア(参加型・提供型を問わず)の導入を検討されてみてはと提案したい。傾聴ボランティアも有効でしょう。(県社協または市社協に情報はありますか?)検討を期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材買出(交代制)を始め、散歩・喫茶店・ドライブ等、天候・気候のよい日は外出機会を増やすよう心がけている。月に1度は遠出を楽しむことも行っている。最近では、伊良湖のホテルの日帰り温泉旅行を実施した。これには、利用者の7家族も参加をしている。四季の風には多く触れるよう工夫している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不穏行動を起こさないケアに心がけており、日中(朝～18時)の玄関は無施錠状態である。万一を考えて、職員申し送り・ケア検討会議等には、職員をリビングに1名配置しているが、場合によれば玄関施錠をする場合もある。玄関にチャイムをつけるだけでなく、利用者によっては、警備個人端末(個人負担)使用で、万一外出してもその居所の把握が出来、安全確保には二重三重の対策がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間の消防訓練は実施していて、体験によって問題点の把握対策は為された。但し、夜間等職員が手薄な場合の検討がこれからである。8月には、集中豪雨による水害の危機に実際出会った。この点は、想定外の出来事であったが、その対策もホームとして必要になっている。	○	火災では、近隣からの支援も可能であろうが、今回のような集中豪雨・東海大地震では、近隣住民も自家の事で手一杯になるであろうから、それに頼らないホームの独自対策が必要になる。対策と訓練を急がれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態で食事は提供されている。食事・水分共に摂取量の記録と管理が行われている。摂食気味の利用者に対しては、医師の指導でエンシュア等で補給している。身体や心理状態による低栄養状態には個別把握をして、栄養バランスについて検討を開始しようとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホール・リビング等の共用スペースは、活け花・その他の飾り等で季節感を演出するような試みがある。田園地帯に立地していることもあり、静かなホームである。リビングの天井も高く設計されており、圧迫感がない開放的な空間である。中庭は外に出ることができ、日差しの中で日光浴を楽しんだり、季節の花を楽しんだり、気分転換をするのにより空間となっている。またかわいい小型犬が利用者と共に暮らしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、掃きだし窓になっており明るく、閉塞感や圧迫感はない。使い慣れた持ち込み家具と、個性豊かな小物が飾られ、個人の独立した生活臭が感じられる。仏壇持込の利用者は、毎日花と水を代え、ご先祖と肉親の菩提を弔っている。利用者が余生を静かに生活している様子が窺える。		